

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宮城県立視覚支援学校 中学部2名，高等部普通科2名，県内高等学校1年生1名， 本校職員1名 計6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ③その他（日本ゴールボール協会 盲学校体育連盟等との連携強化事業）
4 目標 (ねらい)	・パラリンピック種目であるゴールボールの体験を通して，視覚障がい者スポーツの楽しさを味わうとともにオリンピック・パラリンピックについての理解を深める。
5 取組内容	実践「ゴールボールの実技体験・選手との交流」 期日：平成30年2月12日（月）8：45～12：00 場所：宮城県立視覚支援学校体育館 講師：日本ゴールボール協会選手およびスタッフ（8名） ・西村秀樹様：日本ゴールボール協会副会長 ・竹腰徹様：元日本代表選手 ・越川真伸様：元日本代表選手 ・中嶋茜様：元日本代表選手 ・内田佳様：元日本代表選手 ・紫芝勇太様：日本ゴールボール協会スタッフ ・一戸太陽様：日本ゴールボール協会スタッフ ・水野慎治様：日本ゴールボール協会監事，ロンドン2012パラリンピックレフェリー 内容：「ゴールボールの実技体験・選手との交流」 (1) ゴールボールの実技体験 ①参加生徒同士のゲーム 生徒の実態把握のため。 ②代表選手によるデモンストレーションゲーム ・代表選手による迫力のあるプレーを音で聞いて体感した。 ・ゲームを通してルールの解説をしていただいた。 ・様々なチームプレーの紹介と，チームプレーを実践するためには仲間とのコミュニケーションを取りながらプレーすることが大切だということを解説していただいた。 ③基本動作についての指導 中嶋選手が中心となってボールを取る時の基本姿勢やボールの投げ方について模範と解説をし，生徒に一人ずつ選手，スタッフがついて，個別に指導していただいた。

④選手と合同チームでのゲーム

- ・代表選手と生徒で4チームを作り、ミニゲームを行った。
- ・チーム毎に作戦を立て、コミュニケーションを取りながらゲームを楽しんだ。



	<p>④選手と合同チームでのゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表選手と生徒で4チームを作り、ミニゲームを行った。 ・チーム毎に作戦を立て、コミュニケーションを取りながらゲームを楽しんだ。
<p>6 主な成果</p>	<p>パラリンピックや国際大会で活躍した選手やレフリーから直接指導していただいたことで生徒のパラリンピック、ゴールボールに対する興味・関心が高まった。</p> <p>〈生徒の感想〉 一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手に直接教えていただいて、正しいボールの投げ方を覚えることができました。 ・日本代表選手と一緒にチームを組んでゲームをすることができてとても貴重な体験ができました。常に声をかけ合ってコミュニケーションを取ることが大切だと気づきました。 ・選手同士のゲームの様子を聞いてとても迫力がありました。選手の移動が素早いことが分かりました。そして、自分もバウンドボールを投げることができるようになりたいと思いました。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の見え方や運動能力に応じて分かりやすい説明と共に指導者の基本姿勢や投げるフォームを実際に触察し、正しいフォームの理解に繋げることができた。 ・ゴールボール(視覚障がい者スポーツ)の理解を広めるために本校生徒以外にも、学校見学で来校している生徒や、介護体験実習で来校した大学へ案内を出した。また、宮城県・仙台市障がい者スポーツ協会の協力をいただき、チラシの設置やHPに計画を掲載していただいて幅広く参加者を呼びかけた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内だけでなく、関係各所と連携して視覚障がい者スポーツに興味・関心のある方が体験・見学ができるように幅広く紹介していきたい。
<p>9 来年度降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も実施して連携して継続して取り組んでいきたい。 ・障がい者スポーツ協会等のパラリンピックに向けたイベント等に積極的に参加し、オリンピック・パラリンピックをより身近のものにしていきたい。

